

享受している。

本誌は、医史学研究専門の雑誌であり、この場でこの名著を紹介するのが最もふさわしいのはいうまでもない。しかし、実は本書は漢方の臨床家にとっても座右に置くべき好著であり、ぜひ手元で活用していただきたいという希望を、各家学説研究を専門とする評者は持っている。

(安井 廣迪)

〔大修館書店・〒一〇二一八四六六 東京都千代田区神田錦町三
一―四、電話〇三―三二九五―六二二一、平成十一年六月一日、
A5判、四六九頁、本体六、〇〇〇円〕

酒井 シヅ 編

『疫病の時代』

医学史を研究する吾々にとつて、疫病の歴史は多くを学ぶ事の出来る好史料を提供してくれます。しかし数多い疫病すべてに精通することは無理なことです。その中で特に興味をもつて長年月調べてきた疫病の二、三を、どなたもお持ちの事と思います。若し私に尋ねられたら、痘瘡と梅毒と新しくおこったエイズをあげるでしょう。それには諸々の関連した動機や思考があるからです。

昨年二月、酒井シヅ教授編になる『疫病の時代』なる好著が出版されました。実はもっと早く紹介文を書くべきところ、

私の怠慢により時期が経過した事をお詫びしなければなりません。

この書物は酒井教授の序文によると、「月刊言語」誌に一九七七年、「疫病と文明」というタイトルで、八人の執筆でリレー連載したが、終ってみれば疫病が人類にもたらした影響が浮き彫りになり、そのまま終るのも心のこりなので、新たに四人の方に別の角度から執筆して頂きそれを加えて『疫病の時代』と名づけて出版されたものです。

次に執筆者と題名を紹介します。

酒井 シヅ はじめに

村上陽一郎 ヨーロッパの黒死病

宗像 恒次 現代文明とエイズ

鈴木 隆雄 古代日本人の病

酒井 シヅ 近世社会とコレラ

深瀬 泰旦 天然痘 その流行と終焉

鈴木 則子 創造される病〈癩と性〉

立川 昭二 性病〈江戸のエロス〉

福田 真人 佳人と天才の病〈結核のロマン化〉

藤田 紘一郎 寄生虫と感染症〈病とその媒介生物の物語〉

養老 孟司 未来の感染症

小林 武夫 コラム「感染症と戦争」チフスのメアリ」物語

語 昭和最大の食中毒事件」

これを見るとおわかりのように、執筆者はその疫病史に関して長い間の研究歴をもち、著書や論文も多く発表してお

られる第一人者ばかりです。これも酒井教授の人選によるものであろうが、お一人、二十ないし三十頁の中にその疫病の流行、社会や人々の対応の特性を見事にまとめあげてあり、私も大いに学ぶ所がありました。是非御一読をおすすめします。

(杉立 義一)

〔大修館書店・〒102-1846 東京都千代田区神田錦町三
―二四、電話〇三―三三九五―六二三―、平成十一年二月二〇日、
A5判、二四三頁、本体二、〇〇〇円〕

池田文書の研究（日本医史学雑誌 第四五巻 第三号）
の訂正について

桂秀馬の略歴について、おわびして左記のように訂正いたします。ご指摘をいただいた蒲原 宏氏に御礼申し上げます。

池田文書研究会

正

四二二頁上一八行

万延元年二月三日

文久元年二月三十日

誤

中蒲原郡

南蒲原郡

〃 下一行 喉頭結核

喉頭疲